

# 大使館便り

第 159 号 平成 28 年 6 月 6 日  
在ポルトガル日本国大使館

## 1. 東博史大使からのメッセージ

## 2. 政治・経済関係

- (1) コスタ首相、アソレス自治州と共同宣言を採択
- (2) マルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領、モザンビークを公式訪問
- (3) 10年物長期国債の発行
- (4) 2016年第1四半期のGDP成長率
- (5) 2016年第1四半期の雇用統計
- (6) 世論調査、与党・社会党が34.8%で首位
- (7) 政府によるポルトガル航空(TAP)の買い戻しの最終合意

## 3. 広報・文化関係

### 【イベント】

- (1) 邦楽器演奏グループ「どんがら」による公演
- (2) 邦楽器演奏及び書のデモンストレーション
- (3) 第6回「日本祭り」(Festa do Japão)の開催
- (4) 鈴木猛利書家によるワークショップ
- (5) 「どんがら」コンサート
- (6) 東京オペラ協会によるオペラ「キリシタン大名 高山右近」公演

### 【報告】

- (7) IBERANIME イン・リスボン2016における日本大使館による日本紹介

### 【お知らせ】

- (8) 日本政府文部科学省奨学金留学生募集
- (9) 広報文化班からのお知らせ

## 4. 領事関係

- (1) 在留届に関するお願い
- (2) 当館領事業務へのご意見募集

## 1. 東博史大使からのメッセージ

初夏の候、ジャカラランダの花も咲き始め、ポルトガルらしい抜けるような青空も戻ってきていますが、皆様には益々御清栄のこととお喜び申し上げます。

今月号では、日・ポ間の貿易投資及び観光促進の動きとして、「富士通ブラガセンター開所式」「FANUC 社ショールーム／サービスセンター開所式」、「ポ日商工会議所セミナーの開催」、「idD 及び日刊工業新聞グループ主催：ポルトガル・日本企業交流事業」を、文化・学術交流の動きとして、「北海道大学とアルガルブ大学の交流」、「イベロアニメ」、「JAL財団世界こどもハイクコンテスト：第一回ポルトガル大会表彰式」を御紹介したく存じます。

### (1) 日・ポ間の貿易投資及び観光促進の動き

#### ア 富士通ブラガセンター開所式へのコスタ首相の出席

5月5日、富士通グローバルデリバリー・ブラガセンター開所式が行われ、私も出席しました。富士通は、2005年にリスボンにコールセンターを開設し、900人の従業員が23か国語を用いて、主に西欧地域のユーザーをサポートしているのですが、ユーザーの増加に伴い、コールセンターを増設する必要が生じ、種々の要因を検討した結果、ポルトガル北部のブラガ市での開所に至ったとのことです。同ブラガセンターでは、300名の人材を雇用する事が予定されています。ポルトガルでは、35万人以上のユーザーをサポートする由。同開所式には、コスタ首相が出席し、その挨拶の中で、「富士通ブラガセンターの開設により、ブラガ市に新たな雇用が創出されるとともに、付加価値の高いサービス技術が導入され、地元経済に貢献するものであり、ポルトガルを信頼してくれた富士通に感謝する」との言及がありました。

コスタ首相の挨拶にも表れている通り、ポルトガルをはじめEU諸国では、「若年層の失業」が大きな問題となっており、富士通がリスボンセンターの900名に加え、今回300名の新たな雇用を創出することが、リスボンから300キロ以上離れたブラガでの開所式へのコスタ首相の出席につながったと感じました。また、今回、ブラガセンター開設に至る過程で、「ポルトガルには、高学歴で優秀な人材、多言語を話す人材、高度に整備されたITインフラ、比較的安定的な経済状況、サービス指向の文化等、欧州でサービスを提供する素晴らしい環境が整っている」こと、「特に、ブラガには複数の大学、研究機関があり、多言語を話す優秀な若い人材を集めやすく、人件費も安い」ことがブラガセンターの開設につながったとのことで、ポルトガルの新規投資先としての魅力の一端を見た思いがしました。

また、同開所式には、ミゲル・フラスキーリョ・AICEP（ポルトガル投資貿易振興庁）長官、リカルド・リオ・ブラガ市長、カルロス・オリヴェイラ・Invest Braga 総裁（元経済副大臣）も出席し、日本企業のブラガ進出を歓迎するとともに、今後も日本企業の投資に期待したいと述べておられました。

#### イ FANUC 社ショールーム／サービスセンター開所式への出席

4月8日、ポルトガル北部 Vila do Conde 市において、FANUC Iberia 社のショールーム／サービスセンター開所式に出席しました。

同開所式では、FANUC社による同社概要説明及び施設内視察を経て、FANUC Iberia 社長による挨拶の後、リボンカットを行いました。

同社長の説明によれば、現在、FANUC社製品の78%は山梨県にある工場で生産され、主な製品は①コントロール・パネル、②ロボット、③ロボマシン等であり、これらは日常生活で用いられるあらゆる製品の製造過程で活用されており、特にコントロール・パネルに関しては世界市場の65%のシェアを誇っている由。

今回新設したサービスセンターには3名のポルトガル人技術者が常駐し、主に、ポルトガル国内の同社製品に問題が発生すれば8時間以内に対応することを目指している由。

FANUC製品は、ポルトガルではこの4年間の緊縮財政下においても売り上げが伸び、今後の需要の高まりが期待されており、今回のサービスセンターの開設につながった由。

私からは、我が国が2014年7月にポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)にオブザーバー加盟したことにより、ポルトガルをゲートウェイとして、日本企業が、今後も経済成長が期待されるアンゴラ、モザンビーク等のCPLP加盟アフリカ諸国への事業拡大の可能性を示唆しておきました。

私は、これまで、地方のポルトガル企業、日本企業を訪問した際、FANUC社のロボ・マシンを多く目にしてきましたが、「上記のとおり、この4年間の緊縮財政下においても売り上げが伸びており、今後の需要の高まりが期待されている」との説明に心強く思いました。また、今回のサービスセンターの開設により、ポルトガル人技術者の新たな雇用を創出しており、これらの貢献をポルトガル政府始め皆様にもお知らせいたしたく存じます。

ウ ポルトガル日本商工会議所主催「第2回ポルトガル・日本ビジネスセッション（デジタルセクター）」

4月28日、ポルトガル日本商工会議所主催「第2回ポルトガル・日本ビジネスセッション（デジタルセクター）」に出席し、挨拶しました。

同セミナーには、マヌエル・カルデイラ・カブラル経済大臣、ミゲル・フラスキーリョ・AICEP長官も出席、挨拶等を行い、今後の日本・ポルトガル経済関係の進展にとり、重要なセミナーとなりました。

開会セッションの挨拶の中で、私は「(1)昨年11月にコスタ首相のもとに誕生した新政権下においても、ここ2年間に両国首相の相互訪問によって生じた両国関係の飛躍的な進展のモメンタムを維持しつつ、両国間の貿易・投資促進を更に進めていきたい。(2)本セミナーのトピックであるデジタルセクターは、両国経済の成長、我々の豊かな生活の実現に向けて大きく貢献するものでポルトガルにおいて複数の日本企業が活躍している。本セミナーを契機として、両国間の貿易と投資が拡大することを期待しているが、CPLP諸国における日本とポルトガルが有するデジタル技術を用いた協力も視野に入れていただきたい」旨述べました。

また、マヌエル・カルデイラ・カブラル経済大臣は閉会セッションで挨拶し、「(1) (日本とポルトガルの歴史的・文化的な友好関係に言及するとともに)、現在、多くの日本企業がポルトガルに進出し、その優れた技術をポルトガルに持ち込まれていることに大変感謝しており、ポルトガル企業はその技術を学び、吸収している。

(2) ポルトガルにおいてもデジタル産業が成長しており、この分野は将来的に非常に有望である。デジタル社会の進展により、ポルトガルの地方にある中小企業も、その商品の品質及び価値が高ければ、世界中の人々の手に届けることができるのであり、積極的に活用していくことが重要であると考えている。本日のセミナーが、両国間の経済関係強化において大変有益であったと確信している」旨述べました。

更に、ミゲル・フラスキーリョ・AICEP 長官は、

「(1) AICEP は、ポルトガル企業の身近な機関として、輸出・投資を支援することとしている。ポルトガルの対日輸出額は、機械部品、繊維製品、化学品、ワイン、靴などを中心に拡大傾向にあるが、更なる輸出を期待しているところであり、ポルトガル企業による日本のデジタル市場への進出も積極的に支援していきたい。

(2) 本年11月、世界最大級のデジタル技術交流イベントである「ウェブサミット」をリスボンで初めて開催することになっており、このイベントを契機として、ポルトガルのデジタル技術の向上、デジタル関連産業の活性化が期待される。」旨講演しました。

エ idD 及び日刊工業新聞グループ主催「ポルトガル・日本企業交流事業」への出席

5月9日、私は、idD (Plataforma das Industriasa de Defesa Nacionais) 及び日刊工業新聞グループ主催「ポルトガル・日本企業交流事業」のミーティング・セッションに出席し、歓迎の挨拶を行いました。

その後、佐野友昭・日刊工業新聞社専務取締役は、

「日刊工業新聞社は、創刊100周年を迎えた昨年11月に、ポルトガルの防衛関連中小企業を会員として有する idD と両国企業の交流を促進するための協力覚書を締結し、具体的な両国の企業間交流のプラットフォームの構築を目指している。

今回、日刊工業新聞グループが率いるミッションに参加した企業は、いずれの企業も具体的な目的を有して参加している。昨年11月の協力覚書締結後、初めてとなるこの交流事業をきっかけとして、両国のビジネスに発展することを期待している」旨述べました

また、ミゲル・ボテーリョ・デ・ソウサ・idD 理事は、

「idD は、ポルトガル国防省の関係団体であり、防衛関連の中小企業約100社が会員企業として約2万人が従事しており、ポルトガルの GDP 全体の1%を占める年間17.2億ユーロを売り上げている。

ヨーロッパのサンフランシスコであるポルトガルは、EU、米国、アフリカの窓口となる戦略的な観点から地理的な優位性を有しており、空港、港湾、鉄道等の質の高いインフラが整備されている。また、ポルトガルはEUだけでなく、NATOにも加盟していることから、ポルトガル防衛関連企業の製品は両機関のスタンダードを満たすものであり、これらのポルトガルが有するインセンティブは、日本企業にとって魅力的なものであり、本交流事業を契機として、両国の経済交流の促進、両国企業の協力によりシナジー効果が発揮されることを期待している。」旨述べました。

上記の挨拶終了後、同セッションに参加したポルトガル及び日本企業等による事業紹介が行われ、その後、更なるポルトガル企業が参加した両国企業による B2B セッションが開催されました。

なお、中島耕一郎・(株)日刊工業グローバルビジネスサポート最高執行責任者は、

「本年5月12日付で当国北部のポルト市に同社ポルトガル支店を開設し、同社は、ポルトガルを起

点として CPLP 諸国をはじめとした第3国へのマーケットの拡大を図っていききたい」と述べておられました。

私としましても、これらの交流事業をとおして、日・ポ間の具体的な投資促進につながることを期待しております。また、大使館として、これらの動きを支援していきたいと考えています。

## (2) 文化・学術交流の動き

### ア 北海道大学とアルガルブ大学の交流

3月14日、北海道大学理学部教員2名及び学生6名(内1名はバングラデシュからの留学生)がアルガルブ大学を訪問。この訪問に私も参加いたしました。昨年3月にパソスコエリョ首相が訪日された際、京都の迎賓館において、北海道大学とアルガルブ大学の学術交流協定が両大学の学長間で調印されました。この調印後初めての両大学間の交流の機会となりました。一行は、アントニオ・ブランコ学長の案内で、大学図書館で開催されている「大学における世界展」(同大学に在籍する外国人学生の出身国初参加の日本を含む10か国に関連する展示会)を視察しました。この機会に、日本財団からアルガルブ大学への日本関係図書寄贈式を行いました。

その後、同大学海洋科学センター(CCMAR)を訪問し、同センターの研究室、実験室を視察し、研究者との交流を行いました。更に、一行は、地元企業の NOVACORTICA(コルク加工工場)やアルブッフエイラの水族館等を視察、また、リスボンでは、ポ日友好協会の協力を得て、リスボン近郊のオエイラス市長の歓迎を受け私も臨席しました。

今後は、アルガルブ大学の教員、学生が北海道大学を訪問する等両大学間の交流、共同研究が進むことが期待されています。

### イ IBERANIME イン・リスボン2016

リスボン市のコンベンションセンター「アトランティック・パビリオン」で5月7日、8日「イベロアニメ2016」が開催されました。

「イベロアニメ」は、コスプレ、アニメ、マンガ等日本のポップカルチャーの民間主導の大規模イベントですが、5月8日、私も主催者の招きで視察致しました。今回3度目の開催となりましたが、主催者によれば初年度の2014年は、約6000人、2015年は、約12000人、本年2016年には約31000人の来場者があり、毎年参加者が倍増する勢いとのことですが、私もこの3回の「イベロアニメ」を視察したのですが、日本のアニメ、コスプレ等を楽しむポルトガル人の若者の姿やその熱気に感銘を受けました。特に、本年は、日本の「ゲーム」を使用した大規模なイベントが行われ、NINTENDO 及び SONY の「ゲーム」が大変な人気で、近年、その「ゲーム」の売り上げも伸びているとのことでした。このイベントは、民間の事業ではありますが、大使館としても日本文化紹介事業の支援を行っています。ポルトガル人の日本のポップカルチャーに対する熱狂的な関心を日本文化に対する深い理解や「ゲーム」をはじめ日本製品の販売促進にもつながる良い企画であり、今後も支援することが望ましいと感じました。

### ウ 「JAL財団世界こどもハイクコンテスト 第一回ポルトガル大会」表彰式

5月28日、標記表彰式を大使公邸で実施し、冒頭挨拶及び表彰を行いました。

同コンテストは、JAL 財団が 1990 年以来開催しているもので、今回初めてポルトガル大会の実施を決定頂き、当館との共催の形で実施致しました。

同コンテストには、81 作品の応募があり、大賞 3 作品、入賞 5 作品を表彰しました。

同表彰式には、JAL スペイン事務所長の参加を得て、入賞者の子供達と家族、学校の教員も招待しました。

私も最終審査員の一人として、主要作品を見せて頂きましたが、いずれも芸術性が高く、絵の構図、色使い、俳句とのマッチングの素晴らしさを感じ、改めて、「俳句」が日本人の心とポルトガル人の心の交流のツールとして極めて有益であることを実感致しました。また、同コンテストは、ポルトガルの子供達に日本文化に対する関心を高めてもらい、親近感を醸成する上でも有益なほか、日本文化が有する「感性」「精神性」を実感してもらい、より深く日本文化を感じてもらえる機会ともなり、ひいては、子供達の表現力と可能性を引き出す教育上の効果も期待され、素晴らしい企画であると思われました。上記の通り、「イベロアニメ」のように、日本のポップカルチャーに対する関心が急激に高まる中で、この「俳句コンテスト」を将来も継続して頂きたいと考えております。

以上のように、ここ 2-3 ヶ月の間にも、日本企業のポルトガルへの新規投資の動きがあり、これに呼応する形で、ポルトガル側から日本へのワインを中心とする農産品やそれ以外の製品の日本への販売強化の動きが出てきております(この点については、次号以降に詳細を紹介致します)。また、上記の通り、新政権のコスタ首相、カブラル経済大臣等が日本関係行事に出席する等日本との特に経済関係、観光促進に高い関心を示して頂いております。私としましては、これらの二国間関係の強化・拡大に是非とも官民が連携して、姉妹都市の地方公共団体等も含め「オールジャパン」で臨みたいと願っております。当面、6月18日には、第6回「日本祭り」を開催する予定ですので、引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます

## 2. 政治・経済関係

### (1) コスタ首相、アソレス自治州と共同宣言を採択

4月29～5月1日、アントニオ・コスタ首相は、大西洋中央部に位置するアソレス自治州を関係閣僚7名と訪れ、米軍が縮小後のテルセイラ島のラージェス空軍基地の活用案などを巡り、同自治州との間で共同宣言を採択しました。

同宣言では、①ラージェス空軍基地を民間飛行場として活用するための許認可手続きの開始、②同基地の使用に伴う汚染地下水浄化のための技術支援、③ポルトガル観光庁を通じた同自治州の観光業強化、④北米-欧州間の海上輸送ルート整備に向けたテルセイラ島北東部に位置する軍港プライア・ダ・ヴィトリアの再開発、⑤同基地の科学研究プラットフォーム再整備などの案が盛り込まれました。

3月21日、米国防省がラージェス空軍基地の軍事的プレゼンスの削減を図る報告書を米国議会に提出したことを受け、ポルトガル政府は翌22日、「テルセイラ島は、防衛のみならず、より広範な役割及び用途に活用できる高い潜在能力を有する基盤・設備があることを改めて強調する」との声明を発表していました。

### (2) マルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領、モザンビークを公式訪問

5月3～7日、マルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領はモザンビークを公式訪問しました。両

国の経済活動や教育・文化を中心とした開発協力の促進が主な目的で、与野党を含めた同国政治家や現地進出のポルトガル企業の代表者などと幅広く意見交換しました。

4日に開かれたポルトガル人企業家との昼食会で、ソウザ大統領は、「モザンビークはポルトガルの主要投資国。当地に進出するポルトガル企業は強じんさを保ち、この不況期を乗り越えられるものと確信している。危機的状況の中にあつてこそ、国によっては、魅力的な投資機会となり得ることもある」などと述べました。

### (3) 10年物長期国債の発行

5月11日、ポルトガル国庫公債管理庁（IGCP）は、10年物長期国債の入札を実施し、11億5000万ユーロを調達しました。落札平均利回りは、3.252%でした。

### (4) 2016年第1四半期のGDP成長率

5月13日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2016年第1四半期のGDP成長率を前期比で+0.1%、前年同期比で+0.8%であると発表しました。

### (5) 2016年第1四半期の雇用統計

5月11日、ポルトガル国立統計院（INE）は、2016年第1四半期の雇用統計について、失業率が12.4%（前期比0.2ポイント増、前年同期比1.3ポイント減）、失業者数が64万2000人、就業者数は451万3300人であると発表しました。

### (6) 世論調査、与党・社会党が34.8%で首位

5月14日、当地ユーロソnderジェン社による世論調査結果が発表されました（調査期間は5月5～11日、統計上の誤差は3.05%）。政党別支持率では、政権与党の社会党が34.8%（4月の前回調査から+0.5ポイント）、中道右派の社会民主党は31.7%（同▲0.3ポイント）、社会党に閣外協力する左翼連合は9.6%（同▲0.1ポイント）、同じく統一民主連合（共産党・緑の党）は8.4%（同+0.1ポイント）、右派の民衆党は7.0%（同▲0.7ポイント）、人と動物と自然の党は1.7%（同+0.4ポイント）、その他・無回答・無効は6.8%（同+0.1ポイント）でした。

「ポルトガル政府予算の「プランB（追加緊縮策）」が必要になると思うか」との問いには、53.2%が「はい」、27.4%が「いいえ」と答えました。「無回答・無効」は9.9%でした。

### (7) 政府によるポルトガル航空（TAP）の買い戻しの最終合意

5月20日、ポルトガル政府は、昨年11月に民営化したポルトガル航空（TAP）の筆頭株主である企業コンソーシアム「アトランティック・ゲートウェイ社」と新たな株式売買契約に最終合意しました。これにより、TAPの新たな株主構成は、政府が50%、アトランティック・ゲートウェイ社が45～50%、TAP従業員が0～5%になります。また、合意文書には、政府が将来的にTAP株式の50%を超えては保有しない点、株式売買手続の完了後に中国の海南航空がアトランティック・ゲートウェイ社の株式を少数取得する点も盛り込まれました。ペドロ・マルケス企画・インフラ大臣は、「ナショナルフラッグキャリアであるTAPは、新しい株主構成の下で、

更なる信用性と安定性を獲得した。TAP は民間株主を迎え、より資本強化され、より強く、労働者の雇用を確保する企業となる」と述べました。

### 3. 広報・文化関係

(イベント)

#### (1) 邦楽器演奏グループ「どんがら」による公演

和太鼓芸能集団「鼓童」でトッププレイヤーとして活躍していた内藤哲郎が結成した和太鼓等邦楽器演奏グループ「どんがら」による公演が以下の通り開催されます。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

日時：6月16日(木) 18:30～

会場：Óbidos 市内 ※具体的な会場については決定次第当館サイトに掲載いたします。

入場：無料

お問い合わせ：[cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)、21 311 0560 (日本国大使館広報文化班)

#### (2) 邦楽器演奏及び書のデモンストレーション

「日本祭り」(翌18日(土)開催)に出演予定の上記「どんがら」及び鈴木猛利書家が、そのPRも兼ねて「日本祭り」会場正面のヴァスコダガマ・ショッピングセンターにおいてデモンストレーションを行います。詳細については下記までお問い合わせ下さい。

日時：6月17日(金) 13:45～

会場：ヴァスコダガマ・ショッピングセンター内入口階(「Cortefiel」店舗横)

住所：Av. D. João II、nº 40 1990-094 Lisboa

入場：無料

お問い合わせ：[cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)、21 311 0560 (日本国大使館広報文化班)

#### (3) 第6回「日本祭り」(Festa do Japão)の開催

大規模日本文化紹介イベント、第6回「日本祭り(Festa do Japão)」が、日本国大使館、リスボン市、EGEAC、ポルトガル日本友好協会、ポルトガル日本人会の共催により、以下のとおり開催されます。今年は、過去5回開催したベレン地区・日本公園から新たに「**パルケ・ダス・ナソンイス地区**」に会場を移し、生け花、折り紙、書道、武道のデモンストレーションの他、俳句、日本〇×クイズ、日本の音楽、日本食屋台など日本が盛りだくさんのプログラムで皆様のご来場をお待ちします。装いも新たに、日本の夏祭りさながらの雰囲気を、ぜひお楽しみ下さい。詳細については、追って当館サイトに掲載いたします。

日時：6月18日(土) 16:00～22:00

会場：Rossio dos Olivais、Parque das Nações - Lisboa

入場：無料

お問い合わせ：[cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)、21 311 0560 (日本国大使館広報文化班)





#### (4) 鈴木猛利書家によるワークショップ

日本国大使館の主催により、以下のとおり、鈴木猛利書家の指導による書道ワークショップが開催されます(要事前申込)。用具の説明等一通り書道の基本から入り、実際の書き方練習を経て最後は色紙への清書で締めくくります。参加希望者は、下記サイトからお申し込み下さい(参加無料)。

日時：6月19日(日) 13:30~15:15、15:45~17:30(2セッション)

会場：オリエント博物館 (Museu do Oriente)

住所：Avenida Brasília、Doca de Alcântara (Norte) 1350-352 Lisboa

お申し込み (お申し込みは1セッションのみ)：

<http://www.museudoorient.pt/2629/workshop-de-caligrafia-japonesa-com-mestre-mohri-suzuki-.htm>

お問い合わせ：[cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)/ 21 311 0560 (日本国大使館広報文化班)



## (5) 「どんがら」コンサート

和太鼓等邦楽器演奏グループ「どんがら」によるコンサートが以下の通り開催されます。詳しくは下記までお問い合わせ下さい。

日時：6月19日（日） 16：00～（コンサート後、太鼓と篠笛体験ができます）

会場：Jardim da Casa das Artes（ポルト）

住所：Rua Ruben A, 210 4150-639 Porto

URL：www.casadasartes.pt（Casa das Artes）

お問い合わせ：918 984 050（Beniko Tanaka）

※入場料はドネーションにて（投げ銭ライブ）



## (6) 東京オペラ協会によるオペラ「キリシタン大名 高山右近」公演

東京オペラ協会による「高山右近」をテーマとした標記オペラ公演が、以下の通り開催されます。詳細は下記までお問い合わせいただくか、URLをご参照下さい。

日時：7月29日（金） 21：00～

会場：Auditório Sra. da Boa Nova

住所：Rua Campo Santo, 441 2765-307 Estoril

お問い合わせ：[fel@festorilisbon.com](mailto:fel@festorilisbon.com)/ 21 466 0081

URL：[www.festorilisbon.com](http://www.festorilisbon.com)



(報告)

(7) IBERANIME イン・リスボン2016における日本大使館による日本紹介

5月7日(土)、8日(日)、リスボン市パルク・ダス・ナソンイス地区MEOアリーナにおいて、コスプレ、アニメ、マンガ等の日本のポップカルチャーをテーマとした「IBERANIME イン・リスボン2016」が開催されました。日本大使館は、会場内に日本ブースを設け、日本の伝統玩具、書道、風呂敷、浴衣の試着等様々な日本の伝統文化の紹介・デモンストレーションを行い、日本のポップカルチャーファンに伝統的な日本文化にも親しんでもらうまたとない機会となりました。



(お知らせ)

(8) 日本政府文部科学省奨学金留学生募集

日本政府文部科学省によるポルトガル人を対象とした奨学金留学生(2017~2019年度)を募集しています(申請書提出締切:6月30日(木))。詳細については、下記サイトをご覧くださいか、下記問い合わせ先までお問い合わせ下さい。

URL : [http://www.pt.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/00\\_000164.html](http://www.pt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000164.html)

お問い合わせ : [cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)、21 311 0560 (日本国大使館広報文化班)



#### (9) 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主（共）催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、[cultural@lb.mofa.go.jp](mailto:cultural@lb.mofa.go.jp)までご連絡下さい。

### 4. 領事関係

#### (1) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、**ポルトガル国内での転居、日本への帰国、他国への転出等**、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

#### (2) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてにE-mailにてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：[consular@lb.mofa.go.jp](mailto:consular@lb.mofa.go.jp)